

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171800218		
法人名	株式会社ファミリー中部		
事業所名	グループホームファミリー		
所在地	岐阜県土岐市泉町定林寺962-76		
自己評価作成日	令和5年8月18日	評価結果市町村受理日	令和5年11月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigyousoCd=2171800218-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和5年10月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様中心に家庭的な雰囲気の中で、安心安全な生活を送れるように支援する。笑顔、ゆっくり、傾聴、共感、情報公開の実践に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

古い建物をリフォームし至る所に工夫がみられる。家庭的な雰囲気の中で、安心安全に過ごせるよう職員は心を込めてケアに当たっている。利用者優先で支援し、笑顔、ゆっくり、傾聴、共感、情報公開の実践に取り組んでいる。入社2か月の職員が感じた自慢できる点は、利用者の自由が確保されていること。職員の人間関係も良く、離職者も少ない。利用者の中に食習慣が改善されたという事例もあり、日々、健康に暮らすには、一人ひとりの利用者に必要なことを考えるなど、職員の努力が見られる。また、多岐にわたり、毎月、職員研修を行いながら、技術の向上や利用者サービスに活かしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	☐	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	☐	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	☐	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	☐	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	☐	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働けている (参考項目:10,11)	☐	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:18)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	笑顔、ゆっくり、傾聴、共感、情報公開、この理念を常に意識付け職員間で共感し実践しています。	玄関正面に理念を掲げ、職員は常に意識しながら、利用者優先の支援を行っている。また、職員は「怒っても笑っても1日なるべく楽しく過ごしてほしい」と、利用者が笑顔で1日を過ごせるよう支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	周辺に民家なく交流が図れない状況です。	以前は自治会に入って交流もあったが、今は入っていない。周囲は民家が少なく、地域活動にも参加できない。同一法人である2階の有料老人ホームとの交流もない。災害時など、地域との関わりが今後の課題となる。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の影響継続で、参加予定者確保に至らず、家族の方々からの苦情、意見に対して改善、対応を行っています。	コロナ禍で人が集まらないとの理由で、運営推進会議の開催ができていない。行政に相談し書面での開催を指導されるも書面会議もできていない。したがって議事録もない。	管理者の突然の交代で、引継ぎが上手いかず、書面会議の開催に取り組んだが、結局開催できていない。今後は、コロナが5類になったこともあり、対面会議の開催、議事録の整備、参加者の意見の収集を期待したい。
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月2回程介護支援専門員、管理者が包括支援センター、介護保険課に行き情報収集、施設情報の提供をしています。	月2回、地域包括支援センターや介護保険課に行き、空き情報を伝えている。コロナで中止していた介護相談員の受け入れも10月から開始し、隔月に2人ずつの訪問がある。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内の研修に参加し職員全員に周知徹底しています。	定期的に身体拘束適正化の研修を事業所内で行い、職員がレポートを提出している。アンガーマネジメントについても学習会を行っている。学びを実践に活かすため、委員会の議事録を整備していく予定である。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員積極的に講習、研修に参加し、お互いの内容を開示情報共有に努めています。	高齢者虐待防止法や事例などから、虐待について研修を行っている。研修の中で職員間で話し合い、虐待に繋がる事例の原因を追究し防止に努めている。今後、虐待防止の議事録を整備し、運営規定にも虐待防止規定を追加するとしている。	

岐阜県 グループホーム ファミリー

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業、成年後見制度の講習に参加し、何故必要かを周知しています。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	締結、契約後に発生した疑問点等誠意を持ち説明を行い理解、納得を頂いています。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びにに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月発行のファミリー新聞で施設内での様子等お知らせし電話でも近況を伝え利用者様御本人の要望も家族に伝えています。	以前、定期的に発行していたファミリー新聞は職員の都合で現在は発行できていない。今後、発行を予定している。家族からは面会時や電話で意見や要望は聞いている。近年の物価上昇に伴い、利用料金の値上がりについても意見が出され、丁寧に説明している。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	連絡ノートにて意見、情報を共有し毎月の研修にて意見交換をしています。	管理者も現場に従事しており、業務の中で職員から意見・要望を聞いている。また、管理者にLINEで相談している職員もある。夜勤者とは連絡ノートで気づきやケアについて、情報共有しながら意見交換をしている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	iPadを導入し利用者様の一日の様子が速やかに解り処遇改善加算により向上心を持ち働いています。	有給の希望や急な休みにも対応しているが、出勤時はカードリーダーでのチェックである為、職員自身が有給取得管理ができない。休憩室は完備されているが、自宅に昼食を食べに行く職員もある。iPadの導入は、慣れない職員の為に、学びの機会を設けることを検討している。	
12	(10)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の研修の曜日を変更し職員全員が参加できるように配慮しています。	研修については、パート職員が同日に一堂に会することが難しく、毎月、曜日を変えて全職員が参加できるようにしている。夜勤者は、資料を見て学んでいる。研修の議事録がなく、今後は記録を残す取り組みを実践していくとしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会支部会、病院主催の勉強会、介護支援専門委員、管理者が出席し意見の交流情報共有をしています。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コロナ5類となり御家族との外出も少なからず実行でき、又は電話対応にて御家族と職員での支援ができる関係を築いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々個別対応にて努め、要望の言える利用者様には、内容を把握し困難な場合はご家族に相談し対応しております。	日常会話の中で、利用者の思いを汲み取っている。入浴支援中は特に情報収集がしやすく、新たに得た情報は連絡ノートや個人記録、業務日誌に記録し職員間で共有している。コミュニケーションが困難な利用者は、仕草や表情から思いを推測している。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の達成出来ない点を多方面と連携し、問題点を解明し努めております。	普段、介護支援専門員は現場におらず、勤務時間も短い。現場の職員が利用者の様子や変化を伝え、家族の意見も取り入れながら、毎月行うモニタリングを基に介護計画を作成している。作成された介護計画書は現場に置かれておらず、職員は日常、目にしていない。	介護計画書を現場に置いていないため、ケアを行う職員も、介護目標が分からない状況である。個々の介護目標を明確にし、一人ひとりに必要なケアを適切に提供するために、職員がいつでも確認できる書類の管理に期待したい。
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	iPadにて、モニタリング実施	手書きの個人記録、業務日誌、連絡ノートとiPadの電子記録を併用し、目標達成に向けて問題点を見出し、介護計画の見直しに活かしている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員の稼働時間帯により、実現するのが難しくもあるが、柔軟な支援が出来るように、努力しております。	基本的にかかりつけ医の付き添い送迎は家族が行っているが、都合で出来ない時は職員が付き添っている。美容院を経営する利用者家族もあり、カットや本人の送迎もしてもらっている。また、家族が、利用者を喫茶店のモーニングに連れて行くなど、日々、家族の協力を得ながら、臨機応変に対応している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の影響がまだ残っている為、実現出来てないのが現状です。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診が基本として月2回の往診があります。柔軟な対応を行っています。	協力医と訪問看護師が、交互に隔週訪問している。協力医以外の受診は家族同行とし、受診時には情報を渡している。薬の処方変更があった場合は、体調変化を見逃さず主治医に報告をしている。緊急時はすぐ情報が渡せるよう個人ファイルを用意している。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療との連携を図り情報交換により早期回復に協力しております。	入院先の医療機関とは情報を共有し、協力関係を築いている。入院が2か月にわたった時も、部屋を確保していつでも戻れるよう配慮している。その間、部屋代が発生することは契約時に説明し、同意を得ている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期は取り組んでおりません。	契約時に看取りは行っていないことを説明し、事業所がどこまで対応できるかは伝えている。医療行為が常時、必要になったり、機械浴が必要になった時は特別養護老人ホームや医療機関を紹介するなど早めに家族と相談している。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署主催の講習会を受講し、初期対応訓練を行っております。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行っています。夜間対応の訓練、マニュアル等の更新も行っています。	年2回の防災訓練にはセキュリティー会社の協力を得て、実際に水消火器や災害用品を使い、利用者参加で行っている。夜間や緊急時は連絡網で職員が応援に入れる体制を整えている。災害時の備品置き場がなく、水だけでも今後準備する予定である。	事業所の周囲に民家がなく、災害時に不安がある。災害救助に関しても、市と話し合いながら連携を強化していく必要がある。いつ起こるかわからない災害において、避難方法や備蓄品について早急に検討する事が望ましい。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	傾聴を重視し、否定しない介助を行い、人生の先輩としての言葉かけを心掛け対応しています。	浴室の脱衣所には2重のカーテンが掛けられ、プライバシーに配慮されている。入浴介助に関しては、同性介助などの希望は今のところはない。利用者の意向を尊重し、自宅にいるように自由に過ごせるよう支援している。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示困難な方にはゼスチャーや時間をかけ対応をする。思いや希望が言える方は要望が叶うように、務めている。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご希望に沿っての介助は、たいおうできないぶんもありますが、努力しなるべく希望に近くなるよう支援をしています。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嚥下の状態、歯の状態を考慮しています。	食材が届き、その日の職員が手作りし提供している。入居前までは、栄養補助食品しか食べていなかった利用者には、口当たりの良い柔らかい物からゆっくりと食べられるよう支援している。徐々に食べられるものが増え、表情も明るくなり顔色も良くなった事例がある。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士のもとでのメニュー提供		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	8月より口腔ケア支援8月17日オレンジ歯科医来所8月29日口腔ケア指導	毎月、歯科衛生士の訪問があり、日々の口腔ケアは職員の声かけで利用者全員が行っている。特に昼食後は、疼痛があるなど口腔内に問題のある利用者は、職員がサポートしながら行っている。3か月に1回、歯科医が訪問し希望者のみチェック、治療をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の周期を各々管理し声掛けをするよう心掛けています。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週3各利用者様が入浴実施、曜日で決まっているが、希望により変更も行っています。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のニーズに合わせ、休息、安眠して頂けるよう努めています。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	情報の共有を図り誤薬がないよう、又利用者様の状態により確認、報告を行っています。	服薬に関して誤薬の事例はなく、iPadで管理している。職員2人で確認し、本人確認と飲み込みまでを見届けている。全職員が処方内容に目を通し、処方に変更があった場合は、利用者の体調に変化がないかを確認し医師に報告している。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ADLに合わせた役割分担を持つ事で、張り合い、喜びを持たれ、日々楽しく過ごせるように支援しています。	洗濯物を畳む、新聞紙でゴミ箱を作る、掃除、トランプ、塗り絵、書道など、利用者がやりたいことを自分で決めている。職員がフォローしながら、利用者それぞれが役割をもって出来るよう支え、生きがいに繋げている。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の影響がまだあるのか、ご家族との外出、外泊も少ないが今後は徐々に外出支援を行っていききたいと思います。	定期的に孫と一緒に喫茶店に行く利用者や、家族と病院受診の帰りに外食をしたり、一時外泊をする人もある。事業所の車が1台しかなく、中々ドライブ等には行けていないが、身体を動かす為に、屋内レクリエーションとして、体操を取り入れている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本施設内での通帳、印鑑、現金等の預かり無しです。必要時は立て替え方式です。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望により自由にできます。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の環境整備、季節感はテレビ新聞等の情報により職員、利用者様間で会話の中で取り入れております。	既存の建物をリフォームして、利用者が安全に過ごせるよう工夫している。リビングには換気扇や空気清浄機を設置し、新型コロナウイルス感染予防対策に努めており、クラスター発生を防いでいる。壁には塗り絵や書道など、利用者の作品が展示されている。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中で一人居室で過ごす時間、利用者様同士での時間、自由に過ごして頂いています。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はご自宅という意味で御家族と相談のもと居心地良く過ごせるよう援助しています。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	張り紙等の対応、居室の表札、利用者様の視点を考え工夫をしています。今日は何日？カレンダーではなく日めくりで。		